

知多地方教育計画案について

知多地方教育計画案は、「知多の教育の目指す人間像」に示された人間の育成を目指して作成された地域教育計画案である。各学校では、本計画案を基にして十分な検討を加え、適切な学校教育計画案を作成し、実施するものとする。

1 基本方針

本計画案は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の実現を図り、児童に「生きる力」を育むことを目指して作成した。

主なねらいは、次のとおりである。

- (1) 「知多の教育の目指す人間像」に示された人間の育成を基本原則として、小学校学習指導要領の趣旨の具現化を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得をさせるとともに、それらを活用する学習を通じて、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

2 作成上の主な留意点

本計画案は、知多地方の指導者が日々の教育活動を円滑に進めていくことができるように作成したものである。そのために、「何を」「どのように」考えて学習活動を構成するとよいか、その手掛かりを具体的に提示した。また、少経験者の教員が、指導要領の趣旨を踏まえながら基礎的・基本的な学習内容を落とさず指導に当たることができるように、標準的な授業展開について確認できるようにした。

主な留意点は、次のとおりである。

- (1) 各教科等の指導を通した、「資質・能力」の育成
 - ・各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で示す。
 - ※知多地方教育計画案本文の小単元（音楽・図画工作・家庭は「題材」）において、目標が三つない場合がある。ただし、「学びに向かう力、人間性等」については、必須項目としている。
 - ・各教科等の単元における授業展開例では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点を示した上で、評価する際の基になる活動やポイントを示す。
 - ※主体的に学習に取り組む態度を評価する場合は、
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面と、
 - ②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。そのため、各教科等の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行うよう留意する。

(2) カリキュラム・マネジメント等の重視

- ・児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てる。指導計画では、単元を構想する上での留意点に示す。
- ・他教科、他学年との関連やスパイラルな学習について、教科書の内容を踏まえて示す。
- ・幼保小中学校での学習内容の円滑な接続を踏まえる。

※「スパイラルな学習」とは、基礎・基本の定着のために、内容の一部を重複させた複数の学習機会を通して、効果的に定着を図る学習である。

(3) 言語活動の重視

- ・各教科等において言語活動を重視し、その内容や場面について示す。
- ・各教科等における記録説明、論述、討論といった学習活動を充実させる。
- ・言語活動の重視に当たっては、コミュニケーション能力の育成とともに認識・思考・判断という言語の働きについて、児童の能力を高めることを意識する。

(4) 伝統や文化に関する教育の充実

- ・我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、継承・発展させるための教育を充実できるように、それらについて言及できる学習活動や場面を示す。

(5) 道德教育の充実

- ・各内容項目について、指導案例を示す。
- ・道德と教科等との関連を示し、各教科等でそれぞれの特質に応じて道德の内容を適切に指導できるようにする。
- ・各学校の道德教育全体計画の別葉を作成するための参考例を提示する。

(6) 小学校外国語活動・外国語科

- ・外国語科については、検定教科書の内容を基にした教育計画案を作成し、提示する。
- ※外国語活動についても、文科省から出される外国語活動新教材の内容を基に参考資料として作成。

(7) 情報活用能力の育成

- ・学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作に関する内容や場面を示す。
- ・プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けることができる内容や場面を示す。

3 授業時数等の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜資料 1＞

学習指導要領に示された授業時数は、資料 1 の表のとおりである。第 1 学年は年間 34 週、その他の学年は 35 週として各教科・領域別授業時数を示してある。各学校においては、この標準授業時数を満たすように、計画を立てて授業を実施しなければならない。

また、各教科等の特質に応じ、10 分から 15 分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合（モジュール型）において、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができる。

4 教育課程実施上の配慮事項

学習指導要領第1章総則第3「教育課程の実施と学習評価」に示された次の9項目について配慮するとともに、教育委員会の指導や従来の実践、研究の成果を生かして、教育課程の適切な実施に努めることが必要である。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の資質・能力の三つの柱が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視すること。

- (2) 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、読書活動を充実すること。

- (3) 情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

あわせて、各教科等の特質に応じて、次の学習活動を計画的に実施すること。

ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動

イ 児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動

- (4) 児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

- (5) 児童が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。

- (6) 児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

- (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学び

の実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

○ 学習評価の充実

学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習の状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

- 5 知多地方教育計画案本文凡例……………＜資料 2＞
- 6 学習指導案例……………＜資料 3、4＞
- 7 年間計画例……………＜資料 5＞
- 8 日案例……………＜資料 6＞